

幌加内町の魅力体験！！ ふるさとワーキングホリデー

ふるさとワーキングホリデーとは、都市で暮らす若い方たちが、一定期間、地域に滞在し、働いて収入を得ながら、地域の方との交流や地域の魅力を体験する交流事業で、令和3年9月13日から9月30日までの期間、NPO法人シュマリナイ湖ワールドセンター(代表 中野信之氏)にて、2名の大学生の参加で実施されました。

参加されたお二人からは、幌加内の大自然と触れ合えて、都会では体験することが出来ない掛けがえのない時間を過ごすことが出来たことと、ワーキングホリデーに参加して、幌加内町とご縁が出来たことに感謝しつつ、ワーキングとホリデーを満喫された様子でした。

ワーホリ参加者のお二人



北海道大学 鈴木結衣さん(21歳)



慶應義塾大学 店網秦吾さん(19歳)

WORKING



HOLIDAY

WORKING



HOLIDAY

ワーホリ事業に参加してみてもいい。

慶應義塾大学 店網奏吾さん

この度、本事業に参加することができて、本当に良かったです。私がこの事業を通して特に感じたことは、「情熱」と「感謝」です。

まず、ここという「情熱」というのは、幌加内町をもっと盛り上げよう！朱鞠内湖の魅力を多くの人に知ってもらおう！といった地域振興に対する熱い思いのことです。本事業を通して出会った方々は皆、個性に溢れていて、人口が少ないことを感じさせないパワーを感じました。特にSWCの中野代表からは、対話を通じて、地方創生事業における「人」と「つながり」の重要性を教えていただき、今後の勉学や人生設計において非常に良い刺激を受けることができました。この度得られた出会いや知見を大切に、今後それらを自分なりに発展させていきたいと思っています。

また、本事業には本当に「感謝」の気持ちでいっぱいです。北海道幌加内町という私にとって半ば未知な地での就業は、ワクワクで溢れていた一方、不安の連続でもありました。しかしSWCの職員様をはじめ多くの方々のサポートのもと、大きな失敗もなく業務をこなし、無事終えることができました。ホリデーでは、そば打ちやカヌーなど様々な「はじめての体験」をすることができました。特に、そば打ち名人と自分が打ったそばを食べ比べた時の衝撃は、今でもはつきり覚えています。そば打ちの難しさを実感したと同時に、幌加内そばの更なる魅力発信に貢献したいとも思いました。このように、ワーキングもホリデーも、毎日が楽しく非常に充実した2週間を過ごすことができたのは、様々な機会を用意して下さり、私に優しく寄り添って支えて下さった方々のおかげです。本当にありがとうございます。

幌加内町で大自然に囲まれながらワーキングホリデーを体験できたことは、好奇心と自律心を高められたとても貴重な社会経験となりました。ぜひ次年度以降も続けていただきたいです。

北海道大学 鈴木結衣さん

車窓から蕎麦の白い花が一面に広がっているのを見て胸を躍らしてから2週間、主に朱鞠内で過ごした毎日には想像以上の楽しさで、なぜ・なにであふれていた。受け入れ先のレークハウスを始め、まじか、コンカフェ、朱鞠内湖に幌加内湖、色々なところに思い出がたくさんできた。誠やの麻婆麺がとても美味しく、JR深名線資料館では昔の幌加内町に思いを馳せた。幌加内から東京23区までの運賃が書かれているのはなんだか痺れた。笹の芽が赤っぽいことを知ったし、落葉キノコなんて初めて食べた。フキにわらびに山ぶどうに、自然の恵みを享受した。今回私はレークハウスで働きながら、町役場の方との交流を通じて町の魅力や実情などを学び、自然に、人々に、大変お世話になった。コロナ下ということで参加への迷いもあったが受け入れてくださった方々にお礼を申し上げると同時に、幌加内町にすっかり魅せられたので、この魅力をこれからどんどん発信していこうと思う。レークハウスでは幻の魚イトウを通じて奇跡のような出会いがたくさんあることを体感したし、おいしい蕎麦を食べてこれは町外からたくさん人が来ることも納得だと思った。幌加内町のみなさん、普段は盛大に行われているという蕎麦祭りが中止になったり、やはり観光客が減ったりで大変なこと多いと思います。今回ワーホリに参加させて頂いたのも何かのご縁なので、幌加内町の歴史やこれからの在り方などを勉強して考えて、何かしらの形で恩返しができるくらいなと思っております。先の見えない世の中ですが、今度は町の冬の厳しい表情も見たいと考えておりますので、その際は再びどうぞよろしく願います。

鈴木さんがワーホリ新聞を作成してくれました。

町HPで閲覧できます。